

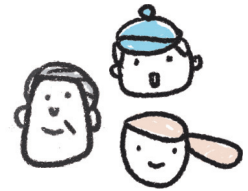
【姫路の道の駅】 とーなっとお？

みんなで
もりあげて
いこう！

第4回「(仮称)道の駅姫路」整備検討懇話会での議論やパブリックコメントを反映したものを姫路市議会で報告し、このたび晴れて「(仮称)道の駅姫路」基本計画ができました。

(仮称)道の駅姫路
基本計画が
できました！

持続可能な道の駅を実現するためには未来を見据えなければなりません。この第4号ではその視点を御紹介します。



未来志向の道の駅とするための視点

少子高齢化
への対応

- ◆子育てしやすい環境づくり
- ◆人生100年時代における高齢者の活躍の場づくり

SDGs
の達成



【環境】

- ◆将来のSDGsをけん引する人材となるようエネルギーや環境問題を身近に感じていただける取組
- ◆防災・減災にしなやかに対応できる環境活動の推進
- ◆水素エネルギーの利活用
- ◆脱炭素型まちづくりの推進
- ◆3Rの推進

【農・産・商業】

- ◆農産物の高付加価値化
- ◆新たなビジネスにチャレンジできる環境づくり
- ◆ヒト・モノ・カネを地域内で循環しつつ、他の地域とも融通し合えるような取組

【観光】

- ◆良質な交流を生み出す観光の推進と体制構築

ニュー
ノーマル※
への対応

- ◆直接接触を避ける工夫
- ◆オンラインとリアルを使い分けた購買行動への対応
- ◆1～2時間圏内の近距離旅行者への対応

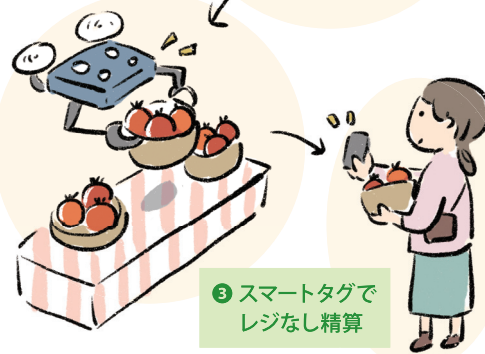
※ニューノーマルとは、“新しい生活様式”という意味です。

例えば

① 野菜をドローンで集荷



② AIが値付け



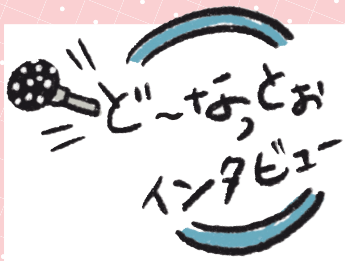
③ スマートタグでレジなし精算

◎詳しくは市のHP



「(仮称)道の駅姫路」基本計画





姫路市道の駅アドバイザーの吉弘拓生さんに「未来志向の道の駅とするための視点」を踏まえてお答えいただきました。



姫路市道の駅アドバイザー
吉弘 拓生さん

吉弘さんは現在、地域活性化のためのひとづくり等の活動を支援している一般財団法人『地域活性化センター』の職員として、全国各地で自治体での事業実現や人材育成を支援されています。

福岡県うきは市職員や群馬県下仁田町副町長を務められ、2017年4月「Forbes JAPAN」の日本を元気にする88人やスーパー公務員12人に選出されたすごい方なのです。

うきは市職員時代には「道の駅うきは」のほか、観光、地方創生事業に従事しておられました。「道の駅うきは」は令和3年まで6年連続で「九州じゃらん」の読者が選ぶ九州・山口の道の駅ランキングで1位を獲得しています。

また、下仁田町副町長時代には「道の駅しもにた」のリニューアル構想にも携わっておられました。

このように、道の駅業務に精通し、アドバイザーとして多方面で活躍されている吉弘さんに本市の道の駅アドバイザーを依頼しています。

基本構想・基本計画の策定に当たって、どんな思いをお持ちでしたか？



計画通りに進めるというより、2%ずつでもいいので大きく変化する時代に対応する「あそび」の部分を持った道の駅をつくりたいという気持ちでした。私自身が「ワクワクできるか」というのはとても大切にしていた指標の一つです。私は、姫路市出身ではないので、外部専門家としての外からの視点を大切にしていこうということは常にありました。

大胆予想！未来の道の駅はこうなっている！



自動車は全て自動運転で、給電スポットとして定期的に立ち寄るように設計された道の駅になっている。キャッシュレス化はさらに進み、「ETC」ゲートのようなもので自動精算されている「近未来型道の駅」になっている。

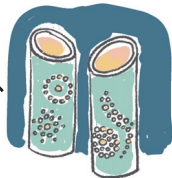


自分が「一日駅長」になったらどんなことをしてみたいですか？



夜の「道の駅」をオープンします！
姫路産の農産物を使った、ノンアルコールカクテル、竹あかりワークショップ、直売所に連結したバーベキューコーナーなど。

「遊べる・ワクワクする」工夫を加えて、イベントではなく「夜にオープンする道の駅」をやってみたい！



全国には1,000を超える道の駅があり、それぞれに地域の個性が活かされています。姫路は「姫路城」のイメージが強いですが、5年後にはこの「道の駅」という声が出ているような第2の拠点、ゲートウェイとしてオープンすることを期待しています。他にはない「ここだけ・いまだけ・あなただけ」を提供できると信じています！

message

